

## 平成 2 8 年度第 1 回事務事業評価における総括

部 局 名	環境部	記入責任者	島津 正美
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>環境部の業務計画に位置づけた 3 0 事業のうち、S もしくは B 評価となる「指標を概ね 8 0 % 達成した」事業は 2 3 事業あり、残り 7 事業についても、「指標を達成できなかった」ものの、「成果はあがった」または「成果は今後見込める」となる A もしくは C 評価であることから、概ね順調に進捗していると考えられます。</p> <p>しかしながら、C 評価とした「太陽光発電設備設置費補助事業」、「ごみの減量化・資源化に関する支援業務」、「資源化促進事業」については、業務棚卸評価シートにおいて、事務改善の方向性の検討を進めます。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>C 評価の「資源化促進事業」については、2 4 年度に分別品目を追加するとともに、「ごみの減量化・資源化に関する啓発事業」において 2 7 年度では 4 4 回の啓発事業を行い、資源物排出量の増加を目指してまいりましたが、目標値の達成には至りませんでした。これは、「ペットボトル、びん・かんなどの軽量化が進んでいること」や「燃やせるごみの中の紙類の比率が高いことから、紙類の資源化が進んでいないこと」などの理由が推測されます。</p> <p>また、「太陽光発電設備設置費補助事業」では、補助件数は目標値の 8 0 % に達しなかったため C 評価となっていますが、予算執行率は 8 0 % を越えており、順調に太陽光発電設備の普及は進んでいると考えられます。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>環境の保全・創造及び資源循環型社会の形成を目指し、環境基本計画をはじめ、環境部で所管している計画や関連施策などを着実に推進するとともに、総合計画基本構想後期の初年度となることから、目標の達成を見据え、着実に事業を実施してまいります。</p> <p>また、業務棚卸評価シートで記載する事務事業の今後の事業展開（事務改善）においても、よりよい改善となるよう検討を進めます。</p>			